



夢はバラ色

## 大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター棟の開設にあたって

野口 眞三郎\*

Overview of Oncology Center Building in Osaka University Hospital

Key Words : Oncology Chemotherapy Osaka University

### はじめに

日本のがん手術療法は世界的にも高く評価されがん治療の向上に多大な貢献を果たしてきた。しかし、残念ながら手術療法だけでは治癒せしめ得ないがんが多数存在することも事実である。これらに対しては手術療法のみならず、薬物療法と放射線療法が併用される。薬物療法及び放射線治療は、がん治療では手術療法と同様に重要な役割を果たしており、その重要性は今後も増加して行くと考えられる。手術療法、薬物療法、放射線療法が三位一体となり効率よく実施されている欧米のがん治療に比し、日本のがん治療は、手術療法の進歩・普及に対して薬物療法と放射線療法が質・量とも極めて不備であり、そのことが日本のがん治療の成績の向上を妨げる要因となっている。また、進行・再発がん患者に対する緩和医療の重要性も近年非常に高まっているにもかかわらず緩和医療も欧米に比べて非常に遅れている。このような背景のもと、薬物療法、放射線治療及び緩和医療の質的・量的向上のため、大阪大学医学部附属病院内の関係諸部門を統括し効率のよい管理運営を実施することを目的として平成20年にオンコロジーセンターが設置された。

オンコロジーセンターは、化学療法部、放射線治療部、緩和医療部門の3部門から構成され平成20

年から活動を開始しがん医療の推進に多大な貢献を果たしてきた。本稿では、オンコロジーセンターの更なる機能強化を目指して、本年9月7日にオープンしたオンコロジーセンター棟の設置の経緯とその機能についての概略を紹介する。

### オンコロジーセンター棟の設置の経緯

近年、がんに対する化学療法（分子標的治療を含む）の進歩は目覚ましく、化学療法で治療されるがん患者数は著しく増加している。また、化学療法の安全な実施や適切な副作用のマネージメントには高い専門性が求められる。本院における化学療法の経緯を振り返ってみると、平成15年に外来化学療法室が設置されるまでは各診療科外来の処置室において化学療法が実施されてきた。外科外来では写真1に示すように、幅が狭くまたマットレスも敷いていない硬いベッドに患者を寝かせ、空き箱（点滴ボルの箱）の上に腕を載せて抗癌剤の点滴を実施していた。また、抗癌剤の調剤（ミキシング）はこの処置室のテーブルの上で看護師あるいは医師が実施し



\* Shinzaburo NOGUCHI

1955年11月生  
大阪大学 医学部 医学科 (1980年)  
現在、大阪大学 医学部 医学科 乳腺  
内分泌外科 教授 大阪大学医学部附属  
病院オンコロジーセンター長 医学博士  
乳腺内分泌外科  
TEL : 06-6879-3772  
FAX : 06-6879-3779  
E-mail : noguchi@onsurg.med.osaka-u.ac.jp



写真1. 外来処置室（平成15年当時）

ていたが、写真2に示すように抗癌剤は調剤の過程でかなり飛散していたと想像される。このような患者にとっても医療従事者にとっても劣悪な環境を改善するために、平成15年12月に外来化学療法室が設置された。



写真2. 抗癌剤ミキシングの危険性

写真3に示すように患者はリクライニングシートに座りテレビ（ビデオ）を楽しみながら抗癌剤の点滴を受けることができ、また、抗癌剤の調剤は、専門の薬剤師が別室で安全キャビネットを利用して安全に行うようになった。平成15年の開設依頼、外来化学療法室で治療を受ける患者数は年々増加している。図1に示すように、平成16年では年間に約6000人の患者に対して化学療法を実施したが、平成25年度の年間患者数は約8600人であった。現在の化学療法室の規模では本院で治療を希望するすべての患者に治療を実施することができず、やむを得



写真3. 化学療法室（平成15年12月開設）

ず他院に患者さんを紹介しているのが現状である。更に、患者さんが化学療法を受けるためには、まず、本院の2階の検査室で採血を受け、次に、各科の診察室（1～3階）に移動して診察を受け、最後に化学療法室（1階）に移動する必要がある、長い待ち時間と複雑な動線のため患者さんにご負担を強いている。以上のような本院におけるがん化学療法の問題点を解消するために、オンコロジーセンター棟を設置することとなった。

### オンコロジーセンター棟の機能

平成23年から準備を開始し、平成25年に概算要求が承認され平成26年4月からオンコロジーセンター棟の建設がスタートし、平成27年9月7日に

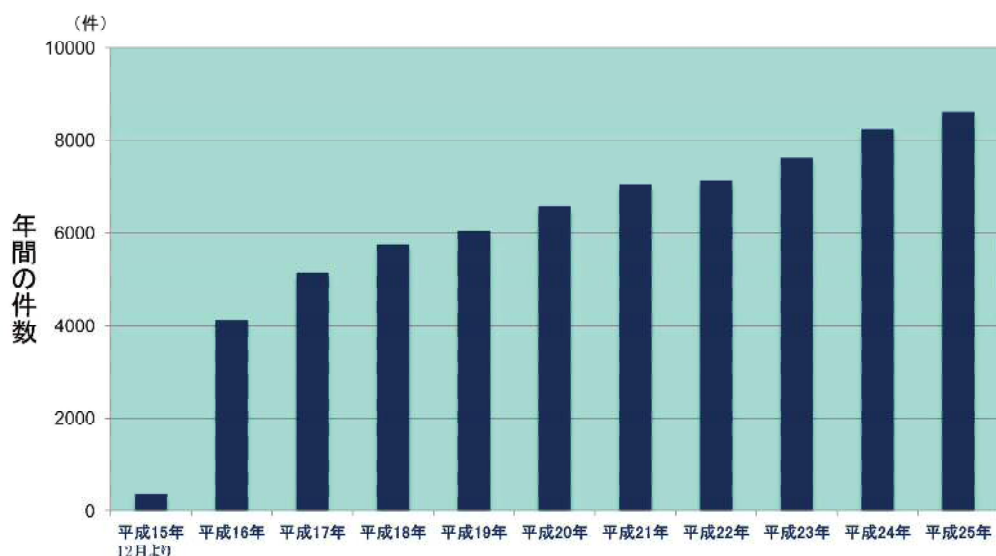


図1. 外来化学療法室での治療件数の推移

オープンする運びとなった。オンコロジーセンター棟設置のコンセプトは、がん化学療法をハイボリュームかつ安全に実施すること、そして、棟内で血液検査・診察・治療のすべてを一括して実施し患者さんの利便性の向上に資することである。オンコロジーセンター棟（写真4）の1階には、採血室と診察室があり患者さんは殆ど待ち時間なしに採血を受け、続いて専門医による診察を受けることができる（緩和医療外来も併設）。その後、2階あるいは3階に移動して化学療法を受けることになる。

2階と3階には化学療法専用のベッドとリクライニングシートが合わせて42床設置され、1日に80名程度の患者さんを治療することが可能である。4階には、化学療法剤の調剤に特化した調剤室を設けそこでは専門の薬剤師が調剤を行う。また、4階には、

がん患者・家族相談室、AYA（Adolescence and Young Adult）世代ルーム、患者サロンを、5階にはがん登録室を設け、がん診療連携拠点病院としての機能の充実に努める。更に、4階には今後発展すると予測される遺伝性腫瘍の遺伝子診断に不可欠な遺伝カウンセリングを実施する部屋を設け、また、5階には会議室を設置し、定期的にカンサーボード、緩和ケア研修会、患者交流会等を開催する予定である。

オンコロジーセンター棟がオープンすることによって、本院におけるがん化学療法が今よりも更にハイボリュームかつ安全に実施され、また、がん診療連携拠点病院としての機能が一層強化されることが期待される。



オンコロジーセンターの棟外観



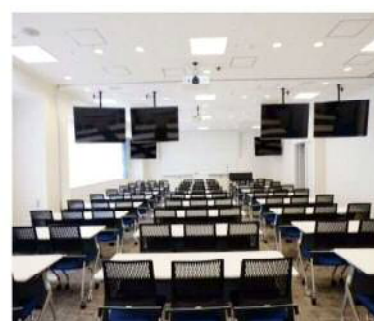
1階 診察室・採血室



2,3階 化学療法室



4階 患者サロン・相談室



5階 キャンサーボードホール

写真4. オンコロジーセンター棟